

## 就活日誌

大学院生 (男)

内定先：一般企業 (自転車メーカー)

※以下は、記憶が曖昧なところがあったり、あまり記憶が定かではない会社の選考手順が抜け落ちたりしているので、了承して欲しい。

2008年9月：地方自治論を専攻し、地方中核市レベルの自治体、特に今まで研究室として多くを関わってきた宇都宮市で働くことを希望していたので、修士論文・授業を進めつつ公務員試験の対策を進める。

一方で、一般企業の方でも1つか2つの内定を取っておかないと首がつかなくなるので、リクナビ、毎ナビ、日経ナビの3つの就職活動サイトに登録し、志望する企業を考え始める。SPI・エントリーシートなどの対策を始める。

10月：公務員試験の対策をしつつ、自分の興味のある分野で、受ける企業を10社に絞る。公務員試験もあるのと、本気で受けたいと考えられる企業に全力を投入することを考えると、このくらいの数が適切かと思う。企業研究も進める。SPI等、筆記対策は毎日コツコツやる。

11月：受験対策&企業対策。以下、毎月コツコツ進める。

12月：受ける企業がエントリーを開始するのを日々凝視し、開始したらすぐにエントリーして説明会を予約。人気のあるところはすぐに埋まってしまうので注意！

ISFJを傍聴し、「構想日本」代表の加藤氏の講演に感銘を受ける。また、学業以外に続けていた地域における自転車スポーツ活動に更なるやりがいを感じ始め、数社エントリーしていた自転車関連の業界の志望度が高まり始める。

1月：地域における自転車スポーツ活動を行なっているとある作家の著作を読み、ますますこうした活動に対する魅力が高まり、自転車業界を志望することにした。しかし、もう1つの選択肢として、公務員受験も取っておくために、受験対策はしっかりと進める。

第2志望のH社 (自転車メーカー) の説明会を受ける。実際説明会を聞いてみると、結構いい会社だなーと感心して、魅力を感じた。

2月：第1志望のB社 (自転車メーカー。業界トップ。だめもとでエントリー) の説明会。1週間以内のエントリーシート提出を求められる。

もう1つの興味のある分野のスポーツ関連の会社Yの説明会。その場でエントリーシートを提出させられる。別のD社 (かなり業界トップ。これもだめもと) も説明会も。さらに、第3の分野として、地域金融機関 (とちぎん、あしぎん、宇都宮証券) の説明会もうける。

3月：H社のエントリーシートが通り、1次試験を受ける。面接。H社は受かっており、課題が出されてすぐに2次試験 (役員面接)。結構鋭く突っ込まれる。

B社のエントリーシートも通っており、1次面接。合格して2次の筆記。これで撃沈 (意外だった)。

Y社のエントリーシートも通っており、1次試験 (面接) を受ける。Y社は撃沈。

D社もエントリーシートが通り、一次試験 (集団面接) を受ける。意外とスムーズに合格。次は筆記と最終試験らしい。

地域金融系は、とちぎん、あしぎんが日程が他の大事な会社とかぶったのでやめる。宇

都宮証券は説明会と企業研究の結果、大変意識の高い良い企業だと言うことに気づいた。  
1次試験は集団面接で、少々ひねりのきいたことも聞かれて焦った。が、どうにか切り抜けて合格。これで相当絞られて次は最終試験（面接&作文）。

4月：H社最終試験。社長と役員との面接。根掘り葉掘り聞かれる。この頃にはこの会社に1番行きたいと考えるようになり、受かったら就活終了とすることにした。  
D社の最終試験。筆記と役員面接。かなり上手くいった感触があった。しかし、そこはトップ企業、簡単に合格になるわけではなく、撃沈。が、いい勉強になった。  
宇都宮証券は合格。とりあえずこれで首はつながる。  
その次の日ぐらいだったか？本月下旬にH社の合格通知がくる。ああ、良かった。これで就活終了。宇都宮証券は丁重に辞退する。本当にいい会社で、採用数も少なく、内定者の辞退は担当者としてはやっかいであろうから、申し訳ない気分だった。しかし何の苦情も言うことなく、快く受けてくれた。公務員試験対策はこれでやめた。

まとめ：

色々と自分の考えも変化し、当初の自治体公務員志望が、興味のある自転車業界に変化した。我が研究室は公務員志望の学生が多いので、自分の経験を踏まえたアドバイスとしては、次のことを言いたい。

第1に、公務員試験のみに絞るのはやめた方がよい。そもそも公務員試験を受けるのならば、早め早めから試験対策をしているのが当たり前なので、「公務員試験と一般企業を平行してやるのは無理だ」というのは間違った考えだと思う。そんなんじゃ一般企業はおろか、公務員試験は受からないだろう。一般企業の選考期間と、公務員試験の期間は大きくずれているので、まずは12月からゴールデンウィークの内定ラッシュの期間まで、一般企業を受け、1つくらいは内定を得ているのが良いと思う。一般企業を受けることによって、公務員試験の面接対策にもなるし、色々と自分の将来を考えるのにも大きな役割を果たしてくれる。特に、近年地方公務員の試験は（自治体レベルの話）、学力よりも本人の「人間力」のようなものをより見るような試験内容となる傾向があるので、一般企業で色々な選考形式を経験し、経験値を積むことは大きな力になる。

第2に、自分の受けるもの（公務員・一般企業を含めて）を、興味のある分野別にジャンル分けして、よく吟味して絞り込むことだ。私の場合は、まず①地方公務員、②それに関連して、地域に密着した仕事と言うことで、地域金融系、③興味のある自転車業界、④それに関連して興味のあるスポーツ用品業界、の4つに進路としての選択肢を設定し、特に企業はよく考えて10社に絞った。結果として一つ一つの企業に真剣に向き合うことが出来たので、受けた企業は大体結構いい線までいけた。また、選考日や説明会がかぶることを考えると、このくらいが適当だと思う。

第3に、当たり前のことを言うようだが、「受ければ何でもいい」と言うヤツは絶対に受からない。必ず自らの進みたい方向性は何なのか、どういった仕事をし、どういった人生を送りたいのか、あるいは何を目指していくのかという本質的なことを、やや哲学的になってしまってもいいからしっかりと考えていないと、就活は上手くいかない。採用する側は、しっかりと見ている（そうじゃないことも多いけど）。難しいかもしれないが、これが一番大切なように思うし、そもそもこうしたことについて普段から真剣に考えるようにしていないと、ぼわんぼわんとした人生を送ってしまうことになるのではないかと（それも1つの生き方ではあるだろうが）。

以上、参考に出来るところは参考にして、自分の道を切り開いていってください！